

(様式1)

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 11 月 21 日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3472501513		
法人名	社会福祉法人成寿会		
事業所名	グループホーム田口		
所在地	広島県東広島市西条町田口東子2729-1 (電話) 082-425-5757		
自己評価作成日	平成24年10月23日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaiqokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3472501513-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaiqokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3472501513-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成24年11月21日

### 【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

小規模の施設だからこそ出来るサービス内容の充実化に力を入れている。今までの生活を大切に利用者一人ひとりが有意義な時間を過ごせるよう季節に合った行事を取り入れたり、役割を持っていただくことで生きがいを感じられるような支援を心がけている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

建物は周囲が田畑という緑豊かな自然環境に恵まれている。ホームは中央に車いすが余裕を持ってすれ違えるほど幅広い廊下があり、居室はその両サイドにあり、居間、居室とも十分な採光に恵まれている。廊下を活用して毎年運動会を開催している。内容も車いすりレー、パンくい競争、仮装りレーなど盛り沢山である。お花見や敬老の日、日帰り温泉旅行など年間を通じていろいろ行事を行いメリハリのある日常が過ごせる。職員は、パートは1名のみで全員正職員で異動も少ないので、お年寄りには安心した環境の中で過ごすことが出来る。職員もきちんと休憩が取れることからゆとりを持って利用者の方に接することが出来、心のこもった介護が実施されている。

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホーム田口の理念がある。	ホームの理念「お年寄りのこれまでの生活を重視し、その人らしくあり続けるためのサービスを目指し、周辺地域と一体となった施設作りをめざしたいと思います」をステーション入り口に掲げ出入りのつど確認し心掛けている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な関わりはあまりないが、行事を通じて交流が出来るよう努めている。	日常的な交流は少ないが、亥の子やお祭りの神輿など季節の行事を通じて交流している。また、専門学校の実習生を受け入れている。	地域の老人会や女性会などと交流し、ホームの得手である介護技術を広めたり認知症の知識の普及を図る。また、地域交流広場(一光安)をもっと地域に開放しホームとの交流を一層活発にすることなどが期待されます。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	実施できていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、利用者の状況やサービスの内容を報告し、出席者全員に意見や助言を求めている。その際に頂いた意見や情報を、その後のサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、利用者、家族、民生委員、包括、施設長、管理者が出席し、市の担当者が参加されることもある。ホームの現況、サービス内容、事故報告、今後の行事予定を報告し、出席者から質問、要望、意見や助言を頂き、その後の運営やサービス向上に生かしている。家族の参加者を増やしたいが休日の開催が難しく現状にとどまっている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	利用者の受け入れに関することや、書類の提出等で不明な点があれば、連絡を取り、助言いただいている。	書類の提出などもできるだけ持参し、内容など連絡を取り助言を頂いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本的には「身体拘束をしない」方向で職員から意見を聞き、工夫しながら対応している。	身体的な拘束は無いようであるが、玄関は施錠されている。安全面に配慮するなどいろいろ考え方はあると思われるが、けんとうしてみるかだいではないだろうか？	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待に関しての研修に参加。事業所内での虐待が見逃ごされないよう職員同士で注意を払っている。		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要時には支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約時には家族の不安や心配事等を聞き、十分な説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者に関しては日頃から職員との会話の中で聞くよう心がけており、家族には来園時や電話連絡等で意見を伺うように努めている。面会に来られた方にはアンケートに協力していただいている。	ご本人の要望は日常の会話から聞くように努め、意思表示の難しい方からは表情・態度などからくみ取るようにしている。ご家族からは面会時や電話連絡等で意見を伺っている。アンケート用紙を玄関に用意しているが、声掛けて協力して頂いている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議等で意見を出していただき、反映に役立てている。	毎月理事長が全施設を訪問し職員と対話し、職員の意見や要望を聞くようにしている。職員は普段から「意見・提案用紙」で自由に意見を出すことが出来る。暖房などの設備に関するだけでなく、職場環境の改善などの意見も述べる事が出来、実際に採用され喜ばれていた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の勤務状況等を把握するため、現場に足を運んだり、話をする時間を作っている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員それぞれの状況を把握し、必要な研修があれば受けるよう指導している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内での交流の機会はある。		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居当初は特に関わる時間を多く作り、本人の思いを傾聴するよう心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の思いや要望、利用者本人の事等、何でも良いので会話することで信頼関係を築けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービスの利用を開始する以前に、必要としている支援を見極めるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な限り出来る能力を維持していけるよう役割を持っていただき、共に生活していく者同士の関係を築いている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	情報を共有したり、家族と本人との関係を理解することで、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の方に協力して頂いたり、普段の会話の中に馴染みの人の名前や場所の名前を入れ込んだりする等している。	家族にお願いし、親戚やご近所の方に面会に来ていただいたり、昔話をして昔の生活を思い出していただいたりしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者個々の性格や、その場の雰囲気を把握し、必要時には職員が間に入る等して関わりを持っていただくよう心がけている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、相談があれば応じている。		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中で利用者本人の思いを汲み取るよう努めている。家族にも協力していただき、今までの生活状況等伺うよう努めている。	お一人ひとりの態度や会話の中から、希望や意向を把握するよう努めている。また、ご家族から、これまでの生活状況等を伺いながらご本人本位になるよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や、今まで関わりのあった方に話を聞く等している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者一人ひとりの日々の状態の変化に注意しながら、現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族や係りつけの医師、普段接している職員等、それぞれの意見を聞き、本人に今一番必要なケアを検討している。	ご本人、家族、医師、職員、ケアマネが意見を出し合っご本人の現状に合った介護計画を立てている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の状態を細かく記録に残すことで、その後の介護計画の見直しに役立っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々本人の状態にあったサービスがあれば検討することもある。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人の残存機能を維持していけるよう、支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前に係りつけ医の確認を行い、家族や本人の希望に応じられるよう配慮している。	入居前にかかりつけ医の確認をしており、希望に応じている。特に希望がない場合毎月内科医の訪問があり診察して貰っている。歯科はホームのすぐ前にあるのでそこで診療して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は利用者の細かな変化を見逃さないように努めており、気付いたことがあれば、すぐに看護職員に報告し、指示を受けるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態を把握するため、医療機関と連絡を取っており、退院時期の把握にも努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者の日々の状態を家族に細かく伝えながら、今後起こり得る状況も予測して早い段階から話しをするように心がけている。	利用者の日々の状態について訪問医の指示を仰ぎながら状態を家族に伝え、早い段階から、対応を話し合っておくようにしている。救急対応についても協力病院にお願いしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	外部の研修に参加し実践力を身につけたり、看護師の指導等を受けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を定期的に行ったり、運営推進会議等で地域の方にも協力していただけるよう話しをしたりしている。	避難訓練はデイサービスと合同で実施している。運営推進会議等で地域の方にも参加して頂けるようお願いしている。	夜間を想定した訓練を実施すること、消防署にも参加して貰ってアドバイスを貰えば、一層効果的な訓練が期待されます。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけに関しては職員個々が意識をもって行うように日頃から気をつけている。	トイレなどそれとなく周りに気付かれないように誘導したり、普段の言葉かけはきちんとするよう心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	すぐに職員が決めてしまうのではなく、必ず本人の意思を伺うように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	今までの生活環境が利用者一人ひとりで違うため、生活のリズムやペースが異なることを理解し、利用者本位の生活の流れを大切にしている。		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の要望にそえるよう、必要な物があれば家族に相談する等して対応している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	始めから出来ない決め付けず、簡単な作業(米を研ぐ、野菜の皮をむく等)でも良いので挑戦して頂き意欲の向上を図っている。味見をして頂き、意見を聞いたりもしている。	毎日の献立が単調にならないようにするとともに温泉旅行での外食や敬老の日、誕生会などの行事食を取り入れている。お彼岸にはおはぎを作り利用者さんに丸めて貰ったが、手つきはとてもよかった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々、食事や水分の摂取量を記録している。その日の体調に合わせて食事形態を変更している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、洗面所にて口腔ケアを行い、義歯の方は夜間預かり、洗浄している。口腔内をその都度確認し、異常があれば早急に歯科受診している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	体調不良や身体状況によりおむつでの対応でなければ困難な方以外は、尿便意がなくてもトイレでの排泄を促している。実際、尿便意がなく、おむつを使用されていた方がトイレでの排泄を続けることで徐々に感覚が戻ったということもあった。	オムツの使用を減らし出来るだけトイレで排泄して頂くよう、排せつ記録票も参考にトイレ誘導に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の原因が利用者個々で違うため、その原因を理解したうえでその方にあった対応を行っている。係りつけ医にもその都度相談している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	可能な限り、本人の要望にそえるよう努めている。	入浴は体調を観察しながら週2~3回、ご本人の希望を尊重するようにしている。夏場はシャワーを併用して出来るだけさっぱり出来るようにしている。中には入浴の嫌いな方もあるが、1:1でゆっくり気を紛らわせながら入浴して貰っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	今までの生活習慣を家族に確認する等して、把握し、利用者のペースで生活していただけるよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員それぞれが薬について理解できるよう、処方箋を確認したり、主治医に聞く等している。薬が変更になったり、増減した場合には少しの変化も		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	昔からの習慣や趣味でやっていた事等、利用者本人や家族から聞き出し、可能な限り継続して行っているような環境作りに努めている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	可能な限り希望にそえるよう努めており、家族にも協力をお願いしている。行事で外出する際には、利用者に行きたい場所を聞く等して外出先を検討している。	お一人ずつの外出は難しいが、お花見、イチゴ狩り、ドライブ、簡保の宿で入浴・食事をする。おやつバイキングに行く。等々。利用者によって食事制限のある方や車いすの方等状況を見ながら、出来るだけ外出の機会が増えるよう努めている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人より希望があれば、家族に相談したうえで頂くようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者から希望があれば、電話していただいたり、送られてきた手紙等の返事も職員が声をかけて促すようにしている。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な雰囲気の中で、ゆったりと過ごして頂けるような環境作りに努めている。利用者の表情の変化に気づき、原因を早めに取り除くよう配慮している。	居間は、全面大きなガラス戸で明るく、周囲も田畑なので季節感に溢れている。ソファに座り、静かな音楽を聴きながらゆったり過ごせる。2階の居間には大きな仏壇が安置され、毎朝お仏壇の前に集い正信偈を唱えるのが日課になっている方もある。廊下の壁面には「田口新聞」が貼られ行事や日常生活の生き生きした記録を見ることが出来る。	
53	11	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	その時々を利用者の気分を汲み取り、その場に適した対応ができるように努めている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	環境の変化によって精神面に影響の多いため、利用者本人の部屋は今まで使っておられたベッドや、棚等慣れ親しんだものを置いていただき、くつろげる空間を作っていくように家族にも協力していただいている。	建物中央の広い廊下を挟んで両側に居室があるが、全ての居室に大きな窓があり、採光は充分である。ご家族の協力で、家庭で使用しておられたベッドや棚を置きくつろげるよう工夫されている。	
55	11	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	車椅子同士がすれ違っても接触しないよう廊下が広く、少しでも自分の力で出来るように廊下やトイレ、風呂場等手すりを設置している。		

グループホーム田口

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホーム田口

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム田口

作成日 平成 24年 10月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練定期的に行っているが、消防署と合同での訓練があまり出来ていない。	避難方法の習得	定期的に消防署と合同で訓練を行っていく。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。